

①自己評価

・児童アンケートの結果と考察

1. 生活について

全ての項目において肯定的な意見「そう思う」「どちらかというと思う」の割合が高い。引き続き、楽しい学校生活が送れるよう指導をお願いしたい。一方で質問1に対して「そう思わない」という児童もいる。個々の児童に当たって、なぜその子が「そう思わない」のか実態をしっかり把握し、一人ひとりの居場所や活躍できる場のある学校・学級づくりにつなげていきたい。

2. 学習について

5つの項目において、肯定的な意見「そう思う」「どちらかというと思う」の割合は高い。しかし「どちらかというと思わない」の数が多い設問がある。⑦「先生たちは健康についての話をしてくれる」はコロナ禍にもあり引き続き力を入れて指導をお願いしたい。また、学習について児童が「そう思う」と自身をもって答えられるよう、指導の充実をお願いしたい。

3. 安全について

どの項目においても「そう思う」「どちらかというと思う」の割合が高い。コロナ禍ではあるが、引き渡し訓練をはじめ、避難訓練や、防犯・防災などに関わる教室も実施している成果であると考えられる。登下校の安全についても担当の先生を中心に問題があった際には、随時指導に当たっていただいているので、継続した指導をお願いしたい。

4. 地域について

この項では、児童が家庭に学校生活のことについて知らせているか、また家庭で自分のことについて話しているかを聞いている。「⑬家庭訪問や個別懇談が終わった後に家の人と学校の話をしている」項目については、「どちらかというと思う」「どちらかというと思わない」の割合が高い。家庭への話題提供を積極的に行い、学校生活や児童の学校の様子等、家庭でも話題にさせていただく中で、児童が自分自身について肯定的な意識を高めていけるような指導が行われることが望ましい。

5. まとめ

児童のアンケートを実施して2年目になる。Formsでのアンケートも定着しつつある。しかし高学年でも複数回回答している児童がいたので、回答の仕方には注意が必要である。今後も毎年実施していくことで、児童自身の思いが学校生活の改善につながっているという意識を持たせられるようにしていきたい。「そう思う」「どちらかというと思う」の欄への○が多かったので、概ね全項目において達成できたといえる。しかし、個々の回答に目を向けると、支援を必要としている児童もいることがわかる。そういった児童の発見・生活の改善につなげていかなければならない。